

第19回 ジャパンオープンハンドボールトーナメント 戦評報告書

競技日	平成26年 8月 9日	試合番号	E-カ
種別・回戦	女子・1回戦	会場	岩出市立体育館

かながわがびあーの			えいちしーおかやま		得点チェック欄	
かながわガビアーノ			HC岡山			
19	8	前半	13	31	前半	<input type="checkbox"/>
	11	後半	18		後半	<input type="checkbox"/>
		第1延長 前半			第1延長	<input type="checkbox"/>
		第1延長 後半			第2延長	<input type="checkbox"/>
		第2延長 前半			7mTC	<input type="checkbox"/>
		第2延長 後半			合計点	<input type="checkbox"/>
		7mTC			記録主任確認	<input type="checkbox"/>

戦評	戦評委員氏名	仲井 圭三
<p>前半開始早々から両チーム共にペースを握ろうと、速攻メインの攻防となった。先制を奪ったHC岡山は激しいプレスをかけたディフェンスであった。それに対し、かながわガビアーノは7番徳田、4番本宮を起点としサイドへのずらしで攻める。一方HC岡山はポストプレーヤーを生かし点を重ねる。激しい接触プレーによりモップがけ、ボール交換の為に中断することも度々あったが両チームともに集中力を欠かさず前半終盤には、かながわガビアーノ4番本宮の速攻により2連続得点、勢いに乗るかと思われたがHC岡山14番高橋のトリッキーなパスワークでかながわガビアーノを翻弄し8対13でリードした。HC岡山がペースを掴みかけた所で前半終了。後半開始するも両チーム運動量は落ちることなく激しいディフェンスから速攻の応酬となった。後半開始15分頃から両チームとも体力消耗からミスが目立った。21対14と点差を詰めたかながわガビアーノは3番内竹、6番秋山が苦しい角度からサイドシュートで巻き返しを図るもHC岡山は終盤にかけて控え選手を使い一層プレスディフェンスを激しく仕掛け、速攻で点を重ね徐々に点差をひろげた。お互い激しいディフェンスであったがクリーンで最後まで白熱した内容であった。</p>		

送信担当記録委員	井戸端 大輔
----------	--------